

教育研究上の目的

幼児教育学科は、感性レベル（感じて気づく）、認識レベル（考えて理解する）、行為レベル（かかわり合い表現する）という3つのレベルでの学びの統合をめざし、「子どもから学ぶ 子どもとともに育つ」という基本姿勢をもった保育者を養成する。さらに、地域社会の中で様々な役割をもって人間の成長発達を支え、未来を切り拓く人材の育成を図ることを教育研究上の目的とする。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

幼児教育学科では、教育研究上の目的を達成するため、次の学生像を人材育成の方針とする。

1. 子どもの心理や発達特性を理解し、それに応じた保育を構築し、実践することができる
2. 子どもの表現を読みとる豊かな感性をもち、子どもと響きあえる表現力を身につける
3. 子どもと保育にかかわる課題を設定し、自ら探究する意欲とその基礎となる知識・技能をもつ

そのうえで、次の資質及び能力を有している者に「学士（教育学）」の学位を授与する。

①知識・理解・技能（技法）

1. 子どもの心理や発達特性を理解している
2. 保育を構成する主要な理論を理解している
3. 保育実践や保育内容にかかわる知識と技能を獲得し、実践に活かすことができる
4. 指導計画の内容を理解し、子どもの実態を踏まえた指導案を作成、実践できる
5. 保護者・地域・他の専門職との連携の重要性や役割分担について理解している

②思考・判断・表現

1. 子どもの人権を尊重し子どもの立場になって考えることができる
2. 実践の中で状況に即応して判断することができる
3. 学習した知識に基づいて保育者として適切な思考や判断が行える
4. 保育者に求められる感性を有している
5. 自分の考えを適切に表現し、相手にわかりやすく伝えることができる

③関心・意欲・態度

1. 「子どもから学ぶ、子どもとともに育つ」という基本姿勢をもっている
2. 子どもの健全な成長発達を積極的に支えようとする
3. 保育や子どもに関わる社会的事象に関心をもっている
4. 公平かつ受容的・共感的な態度を身につけている
5. 自らの問題意識を持ち、それに取り組もうとする

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

幼児教育学科では、保育者養成を基盤とし、広く人間理解力と関係発展力に富み、創造力を備えた人材を養うカリキュラムを編成する。

1. 学びの基礎となる「基礎」領域では、育つものとしての子どもに対する知識・技能を習得し、子どもの育ちを支える保育者としての基本姿勢を学ぶ
2. 「保育と教育」「保育内容」「発達と臨床」「生活と福祉」「健康と運動」の5つの領域では、各領域の専門的な知識と技能の習得を図り、全人的な人間理解をめざす
3. 「表現と文化」の領域では、子どもの豊かな表現をはぐくむことをめざし、学習者自身の感性豊かな表現力を高める
4. 実習関連科目である「フィールドワーク（実習）」領域では、これまでの学びを統合し、子どもの主体性と自発性を尊重しつつ、保育を構築していく実践力を育成する

各領域の学修過程は、次の通りとする。

◆基礎

1. 多領域の専門的見地からの講義を受け、幅広く子どもと保育にかかわる課題について関心をもつ
2. 子どもと保育の実態を実習を通して理解し、保育記録と話し合い及びプレゼンテーションにより自らの子ども理解を深める
3. 子どもと保育にかかわる研究を進めていく上で必要となる研究理論と手法について学習し、卒業研究等の研究課題に取り組むための基礎力を獲得する

◆保育と教育

1. 保育及び教育に関する基本的な知識を獲得し、調べ学習や事例検討、保育観察を通して、保育者に必要な資質を習得する
2. 障害児保育に関する基礎的知識を有し、実際のかかわりを通して、子どもの指導や援助に関する力量を身につける
3. 乳児保育や多文化保育などについての理解を通して、多様な保育形態や保育対象に対応する保育実践力を身につける
4. 保育を計画し、指導方法を子どもの実態を踏まえて選択し、実践するための知識と技能を獲得し、自らの実践を通して評価することができる
5. 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、その分野に関する専門的知識を活用しながら、各自が問題意識を持って発展的学習に取り組む

◆保育内容

1. 保育内容に関する専門的知識を有し、実際の指導に生かす力を養う
2. 保育内容に適した指導方法について理解し、活用する力を育成する
3. 保育内容の5領域を総合的に捉え、具体的な援助を構想することができる

◆発達と臨床

1. 子どもの発達に関する基礎的知識を有し、子ども一人一人の理解に生かす力を養う
2. 子ども同士の関係や仲間集団を把握し、保育に生かす力を育成する
3. 子どもと親に関する心理的支援に関心を持ち、専門的知識を活用しながらカウンセリングマインドの必要性を認識し、自己課題を踏まえて発展的に学ぶ
4. 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、その分野に関する専門的知識を活用しながら、各自が問題意識を持って発展的学習に取り組む

◆生活と福祉

1. 子どもとその家庭の現状と変遷に関する基本的知識を身につけ、事例検討や視聴教材を通して、幅広く子どもと家族にかかわる課題について考える力を養う
2. 保護者に関する支援について事例を通して考察し、保育者に求められる職務や資質・技能を習得する
3. 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、その分野に関する専門的知識を活用しながら、各自が問題意識を持って発展的学習に取り組む

◆健康と運動

1. 子どもの健康に関する基礎的知識と技能を有し、保育場面で必要な援助を選択して実行することができる
2. 子どもの栄養や食育に関する基礎的知識を獲得し、更に今日的課題に取り組もうとする
3. 子どもの運動指導に関する環境設定及び援助方法について実践を通して知識と技能を深める
4. 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、その分野に関する専門的知識を活用しながら、各自が問題意識を持って発展的学習に取り組む

◆表現と文化

1. 音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現にかかわる基礎的知識・技能を獲得し、多様な形態の学習を通し、保育者に求められる感性を養うと共に、自ら表現する力や子どもの表現を理解できる感受性を養う
2. 子どもの表現を総合的な心情や思考の表出と捉え、子どもの発達や内面理解に基づき必要な援助や環境構成を考慮することができる
3. 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、その分野に関する専門的知識を活用しながら、各自が問題意識を持って発展的学習に取り組む

◆フィールドワーク（実習）

1. 幼稚園・保育所・認定こども園の保育者の専門性を理解し、保育実践を通して具体的な事象に即応する力を習得する
2. 児童福祉施設（保育所以外）の保育士の専門性を理解し、保育実践を通して具体的な事象に即応する力を習得する
3. 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、その分野に関する専門的知識を活用しながら、実習先と実習課題を設定し、各自が問題意識を持って発展的学習に取り組む

◆総合

1. 教職カルテに基づき、自らの4年間の学習を振り返ることで学習課題を明確にし、保育者となる上で必要な資質を確認することができる
2. めざす保育者像を明確に形成するとともに、自らの課題解決と更なる知識・技能の獲得に努める
3. 子どもと保育に関する今日的課題に関心を持ち、各自が問題意識を持って発展的学習に取り組む

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

幼児教育学科では、次のような学生を求める。

1. 基礎的な学力を身につけている
2. 豊かな感性をもっている
3. 人と協力して物事を進めていくことができ、基本的な社会性を備えている
4. 子どもと共に学び、子どもと共に成長しようとする意欲がある

また、入学後の学修の基盤として、次の知識や能力が求められる。

①知識・技能

1. 人間教育に必要な幅広い教養を身につけるために、高校までのすべての教科に関する基礎的な知識・技能を身につけている
2. 自分の考えを的確に文章で表現する力を身につけている
3. 幼児教育学科の教育理念を理解している

②思考力・判断力・表現力

1. テーマにそって論理的に考えることができる
2. 他者の意見を受け入れながら自分の意見も伝えることができる
3. 自分の考えを文章で表現することができる

③主体性・多様性・協働性

1. 子どもや幼児教育について自ら学ぼうとする意欲をもっている
2. 人と協力をして物事を進めていく力を身につけている
3. 基本的な社会性（基本的生活習慣や態度、言葉遣い）を身につけている